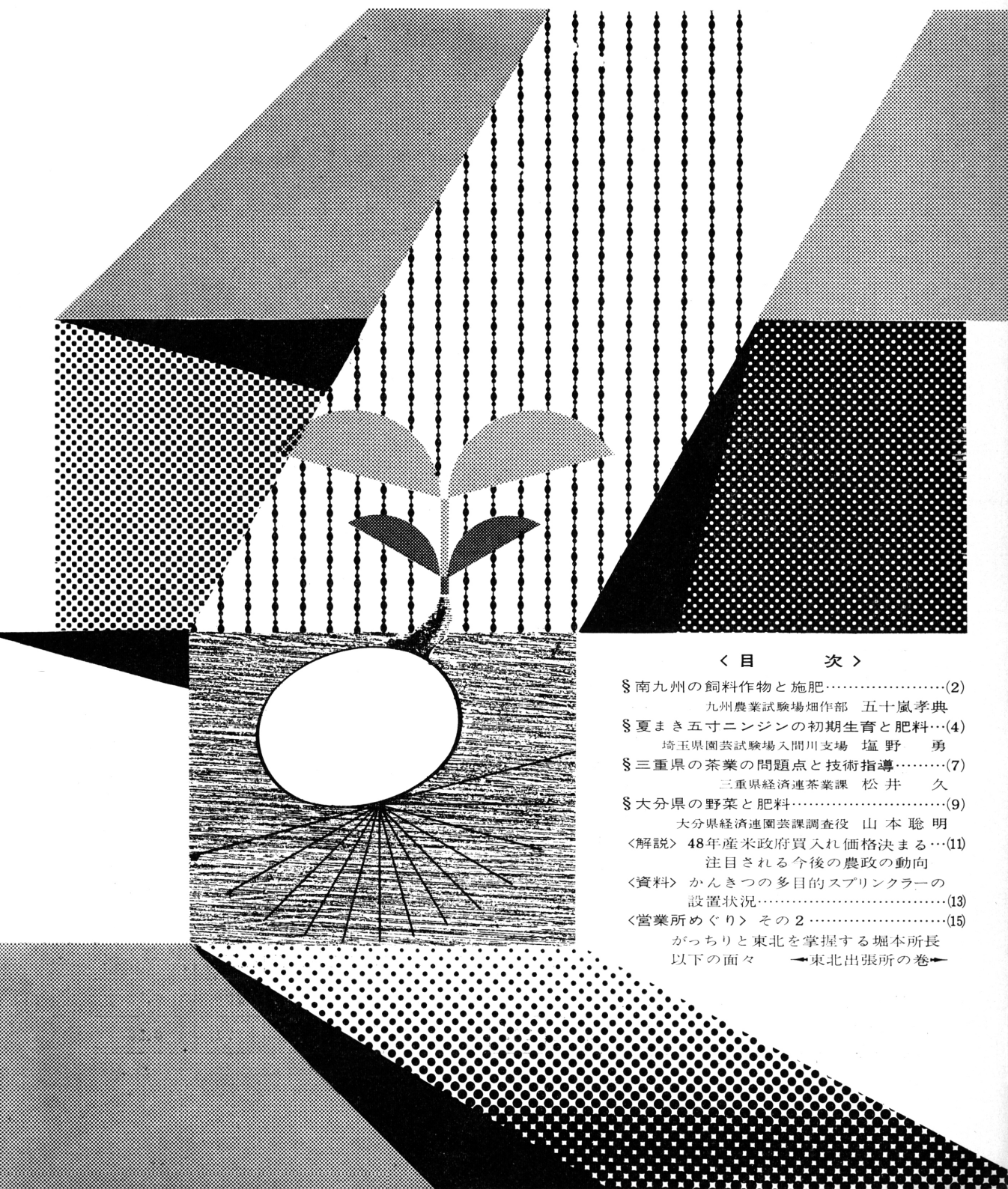


農業と科学

1973
8

CHISSO-ASAHI FERTILIZER CO. LTD.



< 目 次 >

- § 南九州の飼料作物と施肥……………(2)
九州農業試験場畑作部 五十嵐孝典
- § 夏まき五寸ニンジンの初期生育と肥料…(4)
埼玉県園芸試験場入間川支場 塩野 勇
- § 三重県の茶業の問題点と技術指導……………(7)
三重県経済連茶業課 松井 久
- § 大分県の野菜と肥料……………(9)
大分県経済連園芸課調査役 山本聡明
- <解説> 48年産米政府買入れ価格決まる…(11)
注目される今後の農政の動向
- <資料> かんきつの多目的スプリンクラーの
設置状況……………(13)
- <営業所めぐり> その2……………(15)
がっちり東北を掌握する堀本所長
以下の面々 →東北出張所の巻←

南九州の

飼料作物と施肥

九州農業試験場畑作物部

五十嵐 孝典

南九州における飼料作物栽培の現状

九州の中・南部はわが国の食糧基地として野菜、果樹、茶などの増産とともに畜産の発展に期待されているところが大きい。このうち、南九州（鹿児島・宮崎）では、昭和55年度において現在の肉用牛、乳牛および豚の飼育頭数のほぼ倍にあたる69万頭、10万頭および70万頭の生産をそれぞれ目標としている。

したがって、これに伴う飼料作物の増産が要請されており、現在の3倍にあたる10万8千haにおいて372万トンの生産が見込まれている。

第1表は、42年および47年における主要飼料作物の作付面積を県別にみた例であるが、宮崎における青刈りえんぱくの減少を除けば、いずれもこの5年間に作付面積が明らかに増大していることを示している。

第1表 南九州における主要飼料作物の栽培面積(ha)

県	宮 崎		鹿 児 島	
	42年	47年	42年	47年
青刈り とうもろこし	1410	3590	528	1030
ソルゴー	2200	4260	—	780
青刈り えんぱく	4370	3350	5520	6850
牧 草	2380	11400	4400	9000

このように、夏作の主体はソルゴーおよび青刈りとうもろこしであるが、ソルゴーの作付が青刈りとうもろこしを上廻っているのは、とうもろこしの場合、牛の嗜好性が高いにもかかわらず、集中豪雨や台風により倒伏、折損しやすいためである。

これに反しソルゴーの嗜好性はやや劣るが、風には強く、収量も高いので、よく利用されるようになり、最近ではとうもろこしと混ぜまぎして利用する例もみられる。ソルゴーはとうも

ろこしとともに青刈り給与するだけでなく、その約半はサイレージとして利用されている。

夏作としては、この他にローズグラス、テオシント、ネーピアグラスなどがとり入れられている。

牧草のうち、大部分は冬作のイタリアンライグラスである。青刈えんぱくおよび飼料かぶも冬作として利用されているが、イタリアンライグラスに比べれば、その面積は小さい。

飼料作物に対する土壌改良と施肥

南九州における飼料作物は、霧島山麓周辺から都城盆地～大隅半島にかけての畑地帯、および一部の水田で主に栽培されているが、これらの地帯は有効りん酸や石灰、苦土などの塩基に乏しい瘠薄な火山灰土壌が作土になっており、多雨・強雨条件下にあるため、生産力も著しく低い。したがって、この低位生産性を解消するためには、まずこれらの不良条件を改善することが前提となる。

改善のための土壌改良としては堆厩肥、緑肥など有機物の積極的投入、熔りんを主体にしたりん酸質改良資材や苦土珪カル・苦土石灰の多施などがあげられる。

たとえば第2～3表は都城土壌（土性SL）において熔りん多施（50kg/a）による土壌改良の有無が、イタリアンライグラスおよびソルゴーの収量におよぼす影響をみた結果である。

これらによれば、夏作・冬作いずれにおいても熔りんの欠除による減収割合が大きく、未改良区では、茎葉中の苦土含量も著しく低いことが認められる。

とくにソルゴーの生育が著しく不良であるのは、ソルゴーのような小粒種子では発芽後、根の伸長範囲も狭く、養分の吸収が不可能になって、葉および根は赤紫色を呈し、ついには枯死する株も多発したためである。

このような土壌では、とうもろこしの生育もや

第2表 イタリアンライグラスの生草収量(kg/a)およびMgO含有率(%)

試験区	1番刈	2番刈	3番刈	4番刈	合計	合計指数	茎葉(1番刈)のMgO含有率
改良	340	368	281	157	1146	100	0.32
未改良	169	312	276	59	816	71	0.16

注 1. 基肥および追肥窒素は1.5kg/a および4.0kg/a
2. 40年10月～47年6月までの試験

第3表 ソルゴーの生草収量 (kg/a) およびMgO含有率 (%)

試 験 区	1番刈	2番刈	3番刈	合 計	合 計 指 数	茎葉(1番刈)のMgO含有率
普通化成・改良	161	394	75	630	100	0.28
苦土入り化成・改良	199	434	85	718	114	0.29
普通化成・未改良	21	94	18	133	21	0.19
苦土入り化成・未改良	65	204	48	317	50	0.24

注 1. 各区とも施用量は3.0kg/a
2. 47年夏作の試験

や劣るが、種子自身のもっている貯蔵養分がかなり多く、根もよく伸びるのでソルゴーほど著しい減収はみられないようである。

ソルゴーの枯死症状は苦土欠乏の極端な例であるが、南九州の各地では、ソルゴーの生育不振がしばしば散見されており、その作土のpH(水浸)を測定すると4~5を示し、明らかに酸性である場合が多い。

最近のように、収量が増大しかつ飼料作物の作付がくりかえされるようになると、各種養分の収奪量がふえるだけでなく、多肥に伴う土壌からの塩基の溶脱・流亡も促進されるので、意外に早く土壌の酸性化がすすむようである。

したがって、多収を期待して、窒素やカリ肥料あるいは家畜ふん尿を多量に施用する場合には、同時に石灰や苦土も十分に補給することを忘れてはいけぬ。

すなわち、上記のような土壌改良を行なってはじめて、施用肥料も作物に効率よく吸収利用されるのである。

また、南九州では施用窒素が集中降雨によって溶脱・流亡しやすいので、きめ細く分・追肥をくりかえすか、あるいは緩効性窒素肥料を用いるなど、施肥法をいろいろ工夫することが必要になる。

たとえば降水量の多かった45年夏においても、都城土壌では第4表に示すように、中間追肥を行なった普通化成区に比し、基肥だけのCDU化成区におけるソルゴーの生育の勝っていたことが認められている。

冬作期間中においても、多雨の場合には窒素不

足におちいることがあるので、早目に追肥をする必要があろう。

結局、とうもろこし・ソルゴーおよびイタリアンライグラスに対し、少なくともa当たり2~3kgおよび2.5~4kgの窒素ならびに、窒素の8~10割のカリをそれぞれ施用することが望ましい。

第4表 ソルゴーの乾草収量 (kg/a)

試 験 区	1番刈	2番刈	3番刈	合 計	合 計 指 数
普通化成	100	63	44	207	100
CDU化成	105	75	37	217	105

注 各区とも窒素の施用量は3.0kg/a

今後の飼料作物栽培

現在、嗜好性のやゝ劣るとされているソルゴーサイレージについても、品種の選定・施肥法・刈取時期・裁断長・添加物などを考慮すれば、嗜好性の高いサイレージの得られることが明らかにされつゝある。

また、各種暖地型飼料作物の特性についても研究がすすめられ、800~1200kg/aの高収が得られたカラードギニアグラス、発芽・生長の早いシコクビエ、水田転換畑に好適なキシウスズメノヒエなどは有望のようである。

最近、九州農業試験場(都城)では、多雨地帯における干草の安価な乾燥貯蔵法を考案し、水分30~40%の生乾き牧草でも、本法によって徐々に乾燥をすすめ、10~15%まで容易に脱水させ得ることを明らかにしている。さらには密植・若刈りしたソルゴーを用いた干草生産も試みられている。

このような新しい技術は、機械化による飼料作物の省力化栽培技術の発展と相まって、漸次、普及利用されて行くことであろう。

世界の食糧危機が叫ばれ、農産物の輸入をめぐって暗雲が漂い始めた昨今の情勢から判断しても、今後、南九州における自給飼料生産の重要性はますます高くなるものと思われる。

夏まき5寸ニンジンの 初期生育と肥料

埼玉県園芸試験場入間川支場

塩 野 勇

ニンジン栽培に云えることは、第1に、農家の野菜栽培生産に大きく貢献している作目であること。第2に、需要者側には、色沢野菜の代表的なものとしての栄養供給作目であること。第3に、年間を通じての消費価額が安定していることが、野菜中追随を許さないものであるということが、ニンジンの価値を決定づける代表的な項目であろう。

これら社会的貢献度をにやうニンジン栽培について一つの問題点をとらえ、肥料の分野から若干の試験を中心に所見を述べてみたい。

(1) ニンジン栽培でもっとも大切なものは発芽にある

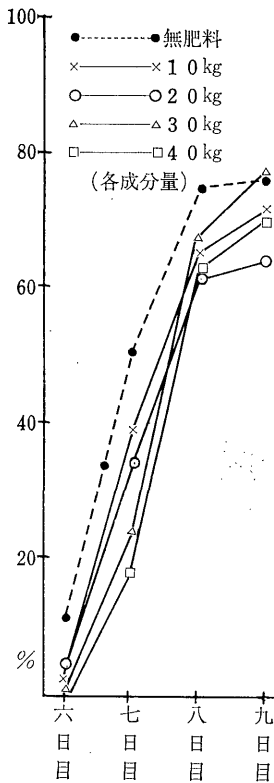
実際栽培の農家から、“ニンジンが発芽はしたが、その後幾日かたって畑に行って見たら、立枯病かなにか不明だが、部分的にあるいはうね条に消えて無くなっていて困ったことになった。”ということが、しばしば問題提起として投げかけられる。

実際ニンジンの消長経過を見ていないので、その原因が病的か、あるいは種技術の欠陥か、確かに把握できなかったが、まず産地のニンジン栽培の状況を聞いて見ると、肥料の種類、なかでも施肥量の多いことに驚嘆してしまつた。

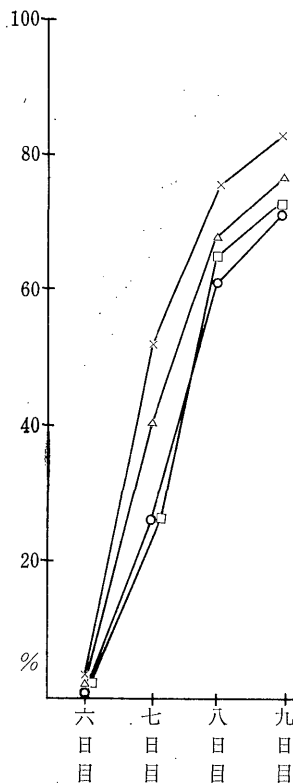
それらは成分にして10aあたり窒素で30kg内外、りん酸で20kg内外、加里で25~30kg内外使用している場合に問題を起している。

また、その肥料の施用方法が大きな問題で、元肥、追肥とも非化学的で、半々くらいか、元肥に少な目に、追肥に多目に施用する方法が多いことであつた。

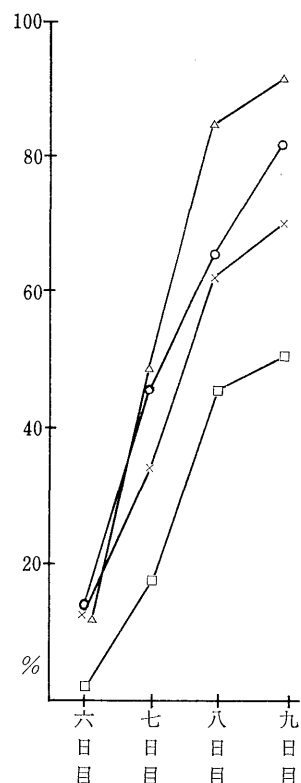
1. 硫酸の影響



2. 硝安の影響



3. 尿素の影響



発芽直後のニンジンは植物体として、いかにも繊細であるので、これらの性質に対する肥料による影響が大きいものと判断し、次のような元肥の肥料の種類、施用方法、施用量について検討を加えて見ると1-6の図に示すような結果を得た。

紙面の都合上省力的かつ実用的な全面撒布方法について記してみると、ニンジンの発芽、初期生育の経過は、肥料の種類により、また施用量によりかなりの影響が与えられる。

すなわち発芽の経緯の理想図は、発芽始期から右上方対角線に直線グラフを示すことであり、各肥料種類間における量的グラフにあまりバラツキを生ぜしめないのが理想的な肥料、施肥量（無障害）といえる。

窒素の形における発芽の安定性は、硫酸（ $(NH_4)_2SO_4$ ）のものが比較的安定した経過を示し、いわゆる障害の少ないものと判定できる。

硝安（ NH_4NO_3 ）では発芽9日目くらいまで、いわゆる発芽揃期までは、各施用量区間とも一定の傾向として上昇発芽率を示した。

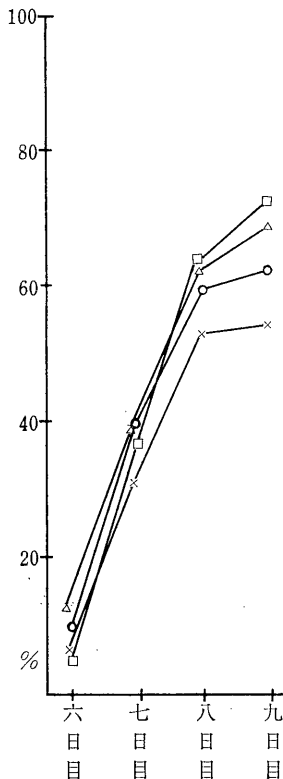
尿素（ $(NH_2)_2CO$ ）態窒素は発芽に対する影響は非常に大きく、施用量間における判断が把握できない内容を示し、したがって発芽に対しては慎重に取扱わなければならない形態であると指摘できる。

りん酸質肥料の過りん酸石灰（ $CaH_4(PO_4)_2H_2O$ ）は低濃度（少量施用区）ほど発芽率は低く、多量施用区ほど良い結果を示しかつ安定している。供用土壌が洪積火山灰土壌であるためと、りん酸肥料の性質上から併せ考えて、幼苗時に与える影響は少ない。

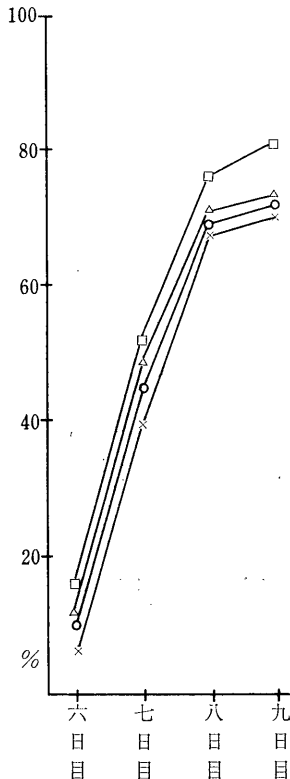
熔成りん肥（りん酸、石灰、苦土、珪酸等の共融体）は各肥料種類間の中で最も安定した成績を示し、少量施用区はやゝ低い発芽率の推移を示したが、あまり問題としてあげられる結果でもなく、多量施用するにしたがい良い発芽経過を示した。

硫酸加里（ K_2SO_4 ）は、10kgの少量区は順調な発芽経過を示したが、20kg以上の施用区間はバラツキがあり、影響があるものと思われるので、元肥施用にあたっては配慮しなければならない1種類

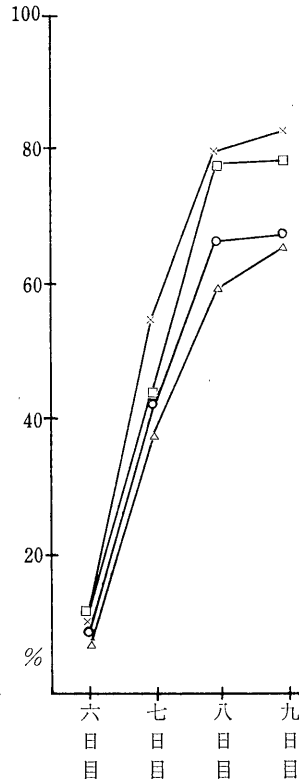
4. 過りん酸の影響



5. 熔りんの影響



6. 硫加の影響



である。

以上実用に供されると思われる肥料種類を用いて発芽に対する影響をまとめて見ると、もっとも安定した経過を示したものに熔成りん肥があげられ、不安定なものに窒素源の尿素があげられる。

したがって夏期温度の高い畑に直接播種される作目に対する元肥施用は、十分に肥料の性質を把握したうえで適量を使用することが、発芽を安定させる重要なポイントになる。この方法により初期の消失現象を解決に導きたい。

(2) 元肥肥料種類間による1カ月後のニンジンの生育状況

前記肥料種類間における1カ月後の生育を図で示して見ると、次のようである。

窒素形態でよかったのが硝安の10~20kgの施用であり、その他の窒素質肥料および施用量間には、見るべき結果を示さない。

尿素施用の区では、施用量間にははっきりした傾向を示さず、生育には良好とは云えない結果を示しながら、発芽時と同じような、よしあしの判定

をくたせない傾向を示した。

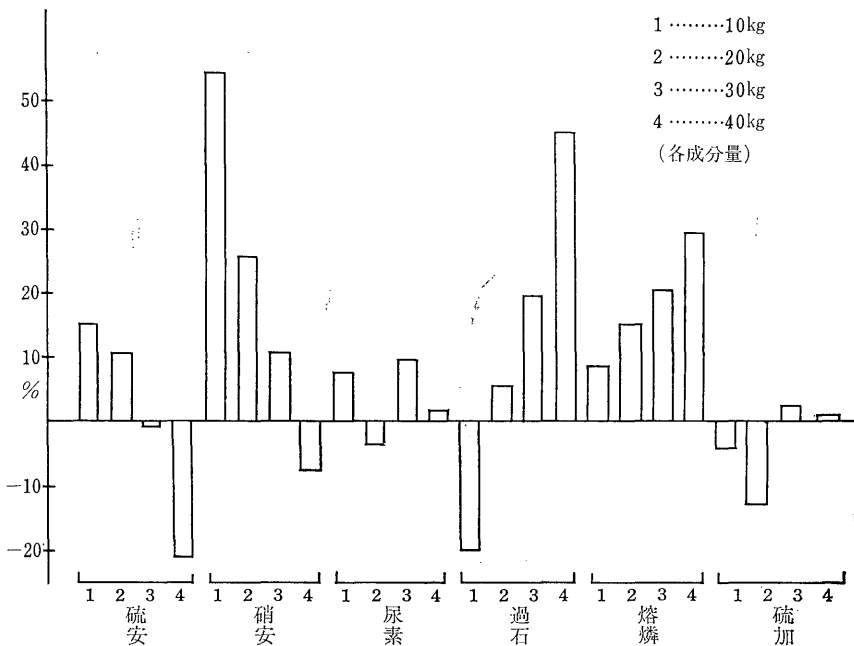
りん酸源の過りん酸石灰では、施用量を多くするにしたがい良い生育を示し、洪積畑地においてはりん酸多用の必要性を示している。(ただし有効りん酸の多少を見極めて)

熔成りん肥も過りん酸石灰とほぼ同様な傾向、結果を示し、利用の方法により優れた結果を得ることができる。硫加は良い結果を示さない。

したがって1カ月以内の初期には、窒素施用は極めて少量で、りん酸肥料を主体とする施肥方法が考えられる。

以上ニンジン主産地を対照に、洪積畑地における肥料の種類、施用量が、発芽、生育初期におよぼす結果をご紹介したが、初期の立枯現象などと思われる発芽、初期の栽培失敗が案外、栽培者自身の作業としての施肥段階にあるやに見受けられるので、地域の土壌特質を見極めて、ニンジン栽培の好スタートを期待し、あわせて中期、後期のダッシュをはかるよう念願する。ご参考になれば幸甚である。

7. 無肥に対する各要素量の1カ月後の生育指数



三重県の茶業の 問題点と技術指導

三重県経済連茶業課

松 井 久

日本の茶は、独特な香味をもって日本国民に広く愛飲され、日常生活からどうしても切りはなせない存在となっている。近年緑茶の需要が着実に伸び、これを反映して、生産者価格が堅調であることから、茶業は比較的好調な経過を辿ってきた。然し反面、茶業をとりまく情勢は楽観を許さない。それは茶価の堅調から国内茶園面積の増加、技術進歩による収量増加（昭和47年度全国茶園栽培面積55,500ha。荒茶生産品96,000トン）、外国緑茶の輸入など、近い将来には需要予測を上廻って生産される可能性は極めて強く、今後の茶業は生産農家、行政機関、関係団体一体となって、① 既存茶園の整備、品種茶園化と団地化、② 共販体制の確立と荒茶工場の整備、③ 生産費の軽減など、茶生産基盤の体質改善を図り、一層生産性を高めるため努力すべきである。

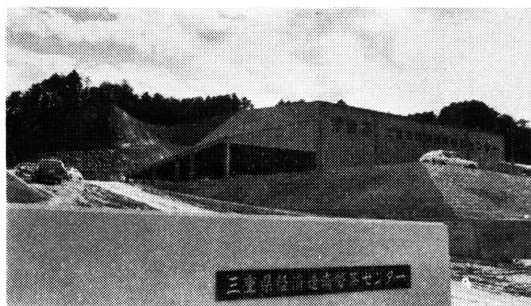
伊勢茶の特徴

伊勢茶の歴史は古く、おそらく日本に茶が招来されて幾ばくもなく県内に入ったらしい。明徳上人(1191)は茶を伊勢川上に分植するとあり(背書国誌)、県の特産物として内外に名声を博している。県の気候風土は茶の生育に適し、茶園面積は3,860ha、産額7,000トンを上廻り全国第3位の産地である。

本県は南北に長い地形で、伊賀盆地、熊野灘に面した志摩紀州等を含み、気象風土共に変化に富み、製茶もそれぞれ特徴あるものが出来る。

茶業を地帯別に分けてみると、北勢の鈴鹿山麓の石榑、大安、北勢町、菰野町、四日市、水沢町、鈴鹿、椿町、関、亀山市(崩積、花崗岩および秩父古生層)、伊賀山間部の優良茶地帯(花崗岩、片磨岩)、一志、飯南、多気、度会の山間部(片磨岩、秩父古生層)の優良茶地帯。

四日市・鈴鹿の平地中級茶量産地帯(第3紀洪積層)、一志、度会の中級茶地帯(沖積、洪積)、志摩の走り茶に分れ、それぞれ特徴ある茶を生産し



三重県経済連南勢茶センター

ている。

伊勢茶の特徴は、一般に香気高く深味があり、特に味は濃厚で、後味が甘涼しい特長がある。

伊勢茶は外観より内質が優れている。これは気候、土質が適すること、摘採が一番茶と二番茶だけの年2回であり、肥培管理が良いので、葉肉厚く内容成分が豊富である。

毎年行われている全国製茶品評会においても優位な成績をおさめ、全国的に伊勢茶の真価が認められつつあり、需要が伸びている。

伊勢茶品質向上運動

将来の生産過剰に対応するために、三重県では茶業会議所、県茶生産関係の行政、茶業センター・普及所・農協における指導体制を結集して、伊勢茶品質向上運動を強力に進めている。事業は「良い茶を安くつくり、伊勢茶独自の特色を生かす」ことにあり、次のことに重点をおいている。

① 施肥の改善 土壌の改良を図り施肥の方法を改善するため、茶の栽培こよみを作り、これを基準として改善していく。

② 病虫害防除と農薬規制の徹底 茶は食品であるから、農薬が残留してないことが必要であるので、防除こよみを作り、また施肥時期・施肥量とか害虫の発生時期が変るので、その時期に必要なチラシを発行し、農家に配布する。

③ 生葉の格付 自園自製工場は問題でないが生葉買い製茶工場では、生葉を品質に応じて生葉代価格差をつけて精算しないと、生葉売り農家の茶園は、肥培管理が十分行われなくなる。生葉売り農家の茶園を良くすることが、本県の茶の品質をよくする当面の問題である。

④ 適期摘採 適期に摘採すれば優良茶が生産される。他の農作業との関係、その他の習慣等も

あるが、茶の嗜好が上質茶に向い、下級茶生産の見通しが悪るので、今後は上級茶を生産しなければ、経営的に不利になるように思われる。

それには、肥料や防除など管理上の問題もあるが、まず全体的に摘採期を、現在より4～5日早くから始めることである。

優良茶生産実証園の設置

茶の品質を向上せしめるための被覆茶と、茶葉摘採の能率と製茶加工設備の関係から、或る程度の製造期間が必要になる。従って摘採期のおそくなった茶園は茶葉が硬化し、番茶になってしまう。この葉の硬化を防ぐ手段として、化学繊維を被覆して生葉の品質を低下させないようにする。この目的をもって実証園を設け、その経済調査を行う。また実証園から生産された荒茶は東京、大阪等大消費地において茶商の批判を得ている。

そ の 他

- (1) 防霜ファンによる防霜施設が県下にかなり普及しているが、その効果について調査検討する
- (2) 土壤線虫調査と防除の方法指導 経済連の土壤診断によりpH、硝酸態N、アンモニア態N、有効りん酸、有効加里、置換石灰、置換苦土、置換マンガン、可溶性アルミナ、りん酸吸収力等を検定し、施肥改善に役立たせている。また土壤線虫を調査し、線虫駆除に努めている。
- (3) 荒茶製造技術の向上のための研修会。
- (4) 老木園の樹勢更新
- (5) 品質向上のためのステッカーを配布する。

茶取引きの近代化

生産から販売までの一貫体制

三重県経済連は茶業の振興と生産の共同化、取引きの近代化を図るため、南北2カ所に茶センターを設置している。

南勢茶センター 多気郡大台町栃原国道42号線沿いにある。47年度の農林省特産農業センター設置事業として、国および県から補助を得て、48年5月に完成した。敷地16,500m² 低温恒湿貯蔵庫1124m²、集出荷場521m² 取引幹施所294m² 仕上加工場325m²。同センターの業務は、南勢地域の5市22町7村の関係農協組合、茶栽培農家11,500戸、茶園925haが対照である。

北勢茶センター 鈴鹿市花川町、名阪国道鈴鹿インターから約2km。農業構造改善事業により42

年8月に竣工した。敷地4,165m²、緑茶貯蔵庫864m²、再製加工場3195m²、販売所972m²、荷捌所450m²。

過去は県内の主産地としての鈴鹿市に茶の取扱機関がなく水沢、亀山の茶市場または庭先取引によって売買されていた。このような大規模な施設が出来し取引きの改善、適正価格、茶代金の早期支払いなどが実施され実績をあげつつある。

経済連南・北茶センターの業務

(1) 荒茶の販売幹施 農家が生産した荒茶(摘んだ茶を一次加工したもの)の見本を並べ、県内外の茶問屋を呼んで、相対取引きまたは入札取引を行なう。

仲立人を入れる公開市場なので、適正な価格で取引される。南勢センターでは48年度は約700トン(約7億円)、北勢センターは約640トン(約6.2億円)の取引きを見込んでいる。

(2) 冷蔵保管 農家または茶問屋の委託を受けて荒茶を保管する。品質低下を防ぐため、-5°C～-7°C湿度45%を保つ。南勢センター1,200トン、北勢センター500トン 収容保管によって出荷の調整をはかる。

(3) 仕上加工 販売幹施した荒茶を、業者の委託によって仕上加工する。

(4) 購買茶の販売 仕上茶をセンター内で袋詰めし、消費地農協へ直販する。

(5) 茶資材の幹施 肥料、農薬、防霜資材、荷造り資材、茶機械の幹施業務を行う。

(6) 生産指導 専任技術者をおき、茶の栽培技術、荒茶加工技術の指導を行う。

茶は需要作物であり、多肥栽培が行われている。収量、品質面から窒素成分が重要な役目を果たしている。それがため、10a 当り窒素を年間100kg以上施す農家が多くなっている。また高価な天然有機質肥料の使用が増えている。緩効性肥料のCDU化成は肥料の溶脱が少なく、肥効が緩やかで、一度に多量施しても濃度障害を起さないなど、特性を有効に利用できれば、天然有機肥料に替るものとして元肥、春肥に施用して有効である。

茶はアンモニア態と硝酸態が半量ずつ含まれるのが、最も窒素の吸収が良い。燐硝安加里(新緑)は追肥用と好評である。たえず茶に好適する肥料を選択し施肥指導している。

大分県の

野菜と肥料

大分県経済連園芸課調査役

山本 聡明

大分県の自然条件

本県の立地はすでにご承知の方が多いと思われるが、まず概要を申し上げ、野菜農業の実態と、肥料事情について意見を申し述べてみたいと思います。

大分県は九州の東北部に位し、東は豊後水道をへだて、四国を望み、北は周防灘に面し、北西は福岡県、西は熊本県、南は宮崎県にそれぞれ隣接し、東西118.6km、南北105.9km、総面積631,234haで全国総面積の1.7%にあたる。

地勢は海岸部、山間地、高冷地からなり、海岸線は延長636kmで年平均気温はおおむね15.5°C~16°C、年間雨量1,500~1,800mm、高冷地から山間地にかけては、年平均気温は9~15°C、年間雨量1,600~2,000mmとなっている。

次に地質および土壌については、県北部は新第三紀安山岩や流紋岩が最も多く、洪積世安山岩も点在している。平坦部は沖積層や砂礫層に分れ、中央部は阿蘇岩が最も多い。

土壌は県下最大の平野である豊後高田市から中津市に亘る一帯は、沖積や洪積砂礫層による埴壤土が多い。海岸部は砂土、内陸部は砂壤土、埴壤土が点在している。大分川、大野川一帯は沖積や洪積砂礫層による埴壤土、砂壤土、壤土が点在している。大野、直入、玖珠などの山間部は黒色火山灰土である。

野菜の主要品目と生産額

昭和47年度の野菜の生産は、露地1万2,000ha、施設100haで生産額は76億円となっている。うち野菜の系統共販額は12億円で、取扱主要品目別順位は“夏秋トマト”66ha、2億4,700万円。“イチゴ”75ha、1億9,200万円。“キュウリ”施設30ha、露地13ha、1億4,000万円。“高原キャベツ”190

ha、1億1,900万円。“スイカ”470ha、7,200万円が上位ベスト5である。

現状では共販額において九州最下位の実態となっている。県をはじめとする野菜担当者にとっては今後の野菜振興にきびしい変革を余儀なく迫られていることは、何人も認める事実である。

今後の野菜農業の新しい対応

大分県野菜農業のひとつの柱である“高原野菜”を中心とする夏秋キャベツ、夏秋トマトの生産の拡充強化については、標高800m地帯を中心とする久住飯田農業地帯がある。

特に九重連山の周辺部には3万2千haにおよぶ広大な原野が展開している。夏季冷涼な気象立地を十分に生かした、新しい農業の展開と工夫がなされなければならない。

次に中間地帯の野菜振興については、大野川上中流地域の“畑地かんがいモデルほ場の設置”と“かんがい排水事業と畑地総合土地改良事業”による県営事業がある。

大野原地区では1,185haの畑地を畑地帯総合土地改良事業としての畑地かんがい、区画整理、農道整備を行い、農用地の集団化による経営規模の拡大等、新しい経営基盤の上に、野菜類を中心とした生産性の高い自立専門農家を育成し、野菜生産の安定と大量生産による市場対応を強化するために、現在、展示的性格をもったモデルほ場の設置、運営がなされている。

一方、大野川中流域右岸洪積台地に展開する耕地で、大野郡三重町の西部一帯360.4haと野津町の全域に広がる1,073.6haを受益地とする総面積1,434haにおよぶ大規模な農業開発がある。いずれも、野菜などの生鮮食糧供給基地としての発展に期待がかけられている。

また一方、周防灘に面した県北部は、北九州市まで1時間程度の距離にあるため、北九州経済との結びつきが強く、今後産業・経済の構造は大きく変貌する可能性をはらんでいる。

現在5,000haにおよぶ田園公園づくりに拍車をかけている。昭和51年度における野菜推定面積は3,100haが見込まれ、経済連では県北集配センターを設置し、集・選果機能の充実に努め、今後

期待がかけられている。

以上が行政重点施策主要事項となっているが、以上の施策が直接野菜振興にどう結びつき、発展と繁栄の可能性を内蔵するのか、見解はまちまちであるが、後進県として謙虚に先進産地がたどってきた道を追跡し、現在到達している水準と比較検討しながら、全体のレベルアップを計らねばならない。

そのためには、単位農協の組織の拡充強化を中心に、県全体を総括するトータルシステムとメリットの追究はもちろんである。

技術的には本誌のタイトルが示すように『農業と科学』について真剣に取りくまなければならない。人工制御を中心とする光、温度、肥料、水利用などの合理的な管理や、ケミカルコントロールなどが当面の課題といえよう。

また本県農業の新しい形成は、他から強制して作りあげられるものでなく、農協、農業者の自発的、自主的努力にまつべきで、特に次の3点に力点をおき申し述べたい。

第1点は農業政策の中心課題を、価格政策から構造政策へ転換すること。第2点は社会政策的な保護政策から合理的な経済政策への転換。第3点は米作中心の作物政策から、園芸振興政策への転換を具体的に展開すべきときであることを、明確にすべきだと思う。

野菜肥料の施肥実態

品 目	肥 料 名	総 量	追 肥	成 分
施設キュウリ	C D U	160kg	kg	N24 P24 K24
す い か	C D U	30kg	CDU ⁵⁰ NK化成 ²⁰	N15.6 P22.5 K15.6
施設トマト	有 機 化 成	140kg	液肥 40	N31.9 P26.4 K29.9
夏秋トマト	C D U	100kg	CDU ⁴⁰ NK化成 ²⁰	N29 P33 K28.2
施設ピーマン	有 機 化 成	200kg	NK化成 ¹²⁰ 液肥 ²⁰⁰	N55.2 P26.0 K45.2
い ち ご	C D U	80kg		N12 P14 K13
は く さ い	磷 硝 安 加 里	80kg	同 ²⁰ NK化成 ⁶⁰	N28 P23 K25
夏秋キャベツ	苦土硫加磷安特19号	120kg	NK化成 70	N27 P35.1 K24.4
ね ぎ	CDU又はIB	100kg	NK化成 50	N23 P15 K23
夏まき人参	C D U	100kg	NK化成 30	N24 P20 K20
ご ぼ う	尿 素 化 成	135kg		N25 P25 K24
里 い も	C D U	60kg		N18 P15 K17

(主幹肥料を中心に単肥を除外した)

園芸肥料の特徴は、何んといっても主穀作物に比べ、肥料集約度と地力保全の上に、入念な肥培管理が必要である。

そのためには、高い肥料集約度に対する合理性と、施肥効率の増進が必要であることは論をまたない。

本県における野菜主要化成肥料銘柄を大別すると、①緩効性肥料 ②有機質系肥料 ③硝酸系肥料となっている。

緩効性肥料ではCDU化成が主要作物に100%普及しているが、有機系肥料や硝酸系肥料も見のがすわけにはいかない。

施肥実態の銘柄別需要量のウェイトを見ると、CDU系50%、有機系30%、磷硝安系20%の普及実態である。

今後の在り方

野菜のいや地現象の回避や、連作障害を克服するためには、何んといっても土壤改良を中心とした、地力の培養保全対策を構じた有機質の還元を前提に、作物生長の場におけるエコロジカルシステムを破壊してはならない。

参考までに具体的な今後の指導指針について述べると、次の通りである。

- ① 堆厩肥の増投または生ワラを5~10cmに切断し、有機物を還元する。
- ② 大型トラクターによる深耕および排水の完備。

③ 塩基飽和度60%飽和、有効りん酸土壤100g当り10mg以上。

④ 経済連園芸相談車による、土壤検診と施肥の改善を推進する。

⑤ 苦土石灰、熔りんを増施する

⑥ 野菜畑のライ麦の輪作導入を積極的に行う。

48年産米政府買入れ価格決まる

注目される今後の農政の動向

48年産米の生産者米価は8月8日午前零時半、田中首相の裁断により1俵1万401円と決定しました。すなわち ① 基本米価は1～4等米平均（包装込み）15%引き上げる。② 指定銘柄奨励金は現行の1俵（60kg）当たり200円を300円に引き上げる。③ 特別銘柄奨励金を新設し200円とする（合計1.1%アップ）。④ これにより1～4等米平均の実質生産者手取り価格は16.1%アップとなり、政府の算出による1俵当たり米価は1俵1万401円と初めて1万円台の米価が出現した訳です。

今回決定した政府買入れ米価は、自民党総合農政調査会がまとめた“要求米価”である実質15%アップをさらに1.1%上回る大巾引上げで、これはこれまでの最高であった39年の13.6%アップを上回る大巾な引上げ率となった訳です。本年度はすでに消費者米価の据置きが決まっておりますが来年度以降、消費者米価引上げにハネ返りは避けがたいとみられています。

なお、今回の米価決定に伴い、農協米穀対策中央本部の足立良平本部長は、8月8日次のような談話を発表しました。

ことしの米価運動は世界的な食糧不足、過剰米の解消など、生産側に有利な情勢があったとは云え、一方では財政事情を理由とするきびしい条件の下で進められた。

政府の決定米価は、われわれの要求にほど遠いとは云え、生産者の強い結束と熱意、国会議員諸氏の努力、国民的な理解の下に結実したものである。

われわれは、この米価決定を端緒として、ますます組織の結束を固め、農業の復権に向けて全力を尽す覚悟である。

米価が決まるまで

48年産米価格決定の
大詰段階に入った7日

夜、自民党は総合農政調査会がまとめた“要求米価”原案をもとに、政調審議会、総務会で検討したが、政調審議会では「15%アップを最低とし、党内多数意見（20%アップ）をしんしゃくして、党総裁が決定する」という意見が大勢を占め、このあと開かれた総務会でも、大巾引上げを要求する意見が出たが、結局、党三役が党内の空気を十分考慮することで、“一任”を取付けたのち、同夜9時過ぎから二階堂官房長官、愛知蔵相、桜内農相ら政府首脳との政治折衝に入った。

党側は党内の強硬意見もあって、要求米価に更に“つかみ金”で政治加算するよう要求したが、愛知蔵相が難色を示したため、官房長官と党三役が、同夜11時半、田中首相を目白台の私邸に訪ね首相の裁断を求めた。これに対し田中首相は「つかみ金で政治加算するより、基本米価を引き上げた方がすっきりするではないか」と裁断した。結局、実質16.1%の大巾値上げが実現した訳だ。

政府・自民党首脳は、党の要求米価である実質手取り15%アップは止むを得ないという点では一致しており、それ以上引上げたのでは食糧制度の維持が財政的に困難となり、一方、農業全般の長期的展望からも好ましくないとし、“要求米価”の基本線は崩すべきではないとしていた。

このように、生産者米価が16.1%という大巾な引上げが実現した背景には、諸物価や賃金の高騰に加え、昨年末の世界的な異常気象による穀物不足で食糧不安ムードが高まり、この際、農民の生産意欲をかき立てる必要があるとの合意が政府自民党にあることと、来年行われる参議院選を控えて不評続きの“減反政策”のイメージ・チェンジを図ろうとしたことも引上げ要因と云えよう。

これからの問題

しかし、政府は去る7月、今年度中の消費者米価据置きを決定している。そこで今回の大巾引上げで、

売買の逆ザヤは、従来の60kg当たり1,148円から更に増加することになる。すなわち政府算出によると生産者米価が1%の引上げで、それに見合った自主流通米の流通促進費増をも含めて125億円の財政負担増となる。

生産者米価引上げ前でも、売買逆ザヤによる今年度の米関係の食管赤字は3,600億円もあり、今回の大巾引上げで、財政負担は更に2千億円増えることになる。

そのために、財政をどうするかが大きな問題になると同時に、農林省としては今後、総合農政を推進して、ますます需要が増大する麦、大豆、飼料作物などを増産しなければならないが、今回の米価の大巾引上げで、収量率の少なかった麦や大豆の生産が、果して計画どおり推進できるかどうか、これまた大きな問題となろう。

一方、来年度からは米の生産調整に伴う休耕奨励金(10a当たり3万円)がなくなるので、現在の休耕地30万haのうち、かなりの面積が米作に戻り、“米過剰”再現の懸念もなしとしない。

そこで政府、自民党は来年度の米の生産調整目標を、本年度目標より40万トン少ない160万トン程度を考え、そのうち20万トンを土地改良のための休耕とし、140万トンは転作の方針で思いきった転作奨励金(来年度約150億円)をつけることにしている。

いろいろな社会的、経済的情勢を考慮したならば、基本米価としては9~10%程度の値上げが妥当ではなかったかとしながら、今回の値上げについて極めて興味ある意見が提起されているので紹介しておきたい。すなわち8月8日付け毎日新聞は次のように述べている。

「もし、これで(9~10%程度の値上げ)は賃金・物価の値上がり分をカバーするにすぎないというのであれば、基本米価をそのままにして、高生産性農業の創出という方向でプラス・アルファをつければよい。

つまり総花的に基本米価を上げるのではなく、コメづくりに意欲を燃やし、技術的・経営的にもその中核となれる農家に対してのみ、生産助成金をつけることである。

政治加算分の約6%は金額にして約520億円で

ある。コメ販売農家350万戸で分ければ1戸当たり1万5,000円程度にすぎない。それが生産力を上げる投資に使われるとは思えないのである。

それよりも政治加算分を個々の農家に配分せずたとえば地区ごとの耕作組合や生産法人でプールし、コメの生産力を向上させるために必要な集団耕作や大型機械の購入や、その他の投資に使わせるという方法がある。

これは行政技術的にも可能であり、中核農家にも消費者にも、納得できる政治加算ではなかったか。ことしの農業白書にもみられるように、自立農家は年ごとに減り、今後の展望もきわめて暗い。この人たちの経営を安定させ、規模拡大や生産基盤整備などに、安心して先行投資する誘い水となるなら、米価の政治加算もそれなりの役割を果たしたであろう。

しかし結果は、農政不信を回復しないままの“政治米価”に終わった。」と

また同じ社説の前段で、「ことしは国民各層が納得する米価決定のチャンスであった」とし、従来、農業団体と生産者、消費者の「いわば相反する要求の板ばさみに悩んできた農林省にとって、政策のスジを通す状況が整っていたはずである」

「米価の決定は行政事項である。国民各層の要望をくみ上げ、政党の意見を参考にするとしてもそれは政府が責任を持って決めるべき事柄であるその意味で言えば、米価審議会に諮問した9.1%という値上げ案が、政府の責任ある数字ではなかったのか。米作農家の生産費を補償するとともに他の食糧生産とのバランスをとり、消費者の不安を解消すると確信した上での数字ではなかったのか。はじめから与党によるプラスアルファを予定した数字を、政府案として米価審議会に諮問するほど国民を軽視した話はないし、農林省みずから行政府としての主体性、指導性を放棄したといわれても仕方あるまい。」と云っている。

それはスジ論である一と云われるかも知れないが、的は決してはずれてはいない。こういう方針で行って、いつまでたっても「農政不信」を払拭することはできぬのではないか。

〔資 料〕

かんきつの多目的スプリンクラー施設の設置状況

事項 県名	カ 所 数	受 面 益 積	関 戸 係 数	対象作業別面積			自動化程度別面積			薬液混入 法別面積	
				防 除 施 肥	防 除 灌 水	防 除 の み	全自動	半自動	手 動	混入機	調合槽
神 奈 川	16	148.9	122	—	134.3	14.6	147.5	—	1.4	134.1	148
	48	488.63	595	417.2	54.38	17.05	107.0	300.6	81.2	388.4	100.23
岐 阜	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	9	21.85	58	16.75	5.1	—	—	—	21.85	17.05	4.8
愛 知	3	24.0	23	9.0	15.0	—	22.0	—	2.0	22.0	2.0
	3	5.0	3	4.3	—	0.7	—	—	5.0	—	5.0
大 阪	63	302.4	510	157.7	71.7	73.0	—	80.0	222.4	95.0	207.4
	20	74.9	159	54.0	20.9	—	52.5	—	22.4	17.0	57.9
山 口	11	27.6	90	0.8	26.8	—	—	—	27.6	—	27.6
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
香 川	7	463.0	1,259	192.3	270.0	0.7	59.1	—	403.9	462.3	0.7
	223	437.92	534	26.9	352.5	58.52	15.0	69.7	353.22	85.6	352.32
愛 媛	3	3	3	—	—	3.0	—	—	3.0	—	3.0
	6	9.2	7	4.5	—	4.7	—	2.8	6.4	—	9.2
岡 賀	21	101.7	133	3.7	93.8	4.2	20.4	49.8	31.5	324.4	69.25
	5	28.8	33	25.3	3.5	—	—	19.4	9.4	19.4	9.4
長 崎	34	190.0	204	14.7	175.3	—	—	14.7	175.3	14.7	175.3
	22	122.3	91	—	99.3	23.0	—	—	122.3	—	122.3
熊 本	18	43.8	21	17.5	4.3	22.0	13.0	—	30.8	13.0	30.8
	5	26	41	—	26	—	—	23.0	3	—	26.0
大 分	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	18	43.8	21	17.5	4.3	22.0	13.0	—	30.8	13.0	30.8
宮 崎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	5	26	41	—	26	—	—	23.0	3	—	26.0
鹿 児 島	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	5	26	41	—	26	—	—	23.0	3	—	26.0
計	517	2,519.0	3,886	944.65	1,352.88	221.47	436.5	560	1,522.5	1,301.0	1,218.0

多目的スプリンクラー施設の普及予想面積

(1)

果 樹 の 種 類	栽 培 面 積		スプリンクラー施設普及面積	
	47年	56年	47年	56年
み か ん	176,640	192,684	2,502.4	57,972.83
な つ み か ん	6,434	6,990	18.0	1,841.0
その他のかんきつ	1,485	2,303	—	555.0
落 葉 果 樹	12,475	15,392	19.1	1,679.0
計	197,034	217,369	2,539.5	62,067.83

多目的スプリンクラー施設の事業費

共同 面積	個人 千円/10 a						
	0~10ha	10~20ha	20~30ha	30~ha	0~2ha	2~5ha	5~ha
神 奈 川	105	—	—	195	—	—	—
静 岡	150	186	189	164	75	77	—
岐 阜	—	—	—	—	—	—	—
愛 知	112	58	—	—	96	—	—
三 重	196	232	—	—	—	—	—
大 阪	—	—	—	—	160	140	—
和 歌 山	141	162	—	217	—	—	—
広 島	—	187	195	—	60~154	40~60	—
山 口	49	71	—	—	—	97	—
徳 島	—	—	—	—	—	—	—
香 川	—	—	50	306	—	60	—
愛 媛	794	81	81	151	68	72	50
高 知	—	—	—	—	50~60	—	—
福 岡	—	—	—	—	75	110	—
佐 賀	—	177	—	174	80	120	170
長 崎	117	180	—	—	100	—	—
熊 本	96	186	138	230	105	105	—
大 分	60	50	—	50	60	55	50
宮 崎	130	185	—	—	75	77	—
鹿 児 島	—	145	—	—	4	150	—

多目的スプリンクラー施設の普及予想面積 (2)

果 樹 の 種 類	56 年 の 内 訳					
	対 象 作 業 別 面 積			自 動 化 程 度 別 面 積		
	防除・灌水・施肥	防除・灌水	防 除	全 自 動	半 自 動	手 動
み かん	43,723.7	10,163.38	4,085.75	22,719.0	25,271.4	9,982.43
なつみかん	1,083.0	635.0	123.0	266.0	1,212.0	363.0
そ の 他 の か ん き つ	233.0	162.0	160.0	183.0	200.0	172.0
落 葉 果 樹	1,411.0	220.0	68.0	470.0	1,003.0	226.0
計	46,450.7	11,180.38	4,436.75	23,638.0	27,686.4	10,743.43

営業所めぐり

がちりと東北を掌握する

堀本所長以下の面々…

(その2) 東北出張所の巻

仙台の七夕(たなばた)祭がやってきた

「…6日から仙台七夕(たなばた)祭りが開幕青森のねぶた、秋田の竿灯(かんとう)、山形の花笠踊りと、これで東北の4大夏祭りが全部出揃った。

ことしは京浜地方からの観光客が例年より目立ち、市内の特設駐車場も朝のうちに満パイ。マイカーの向うを張るパイコロジーも盛んで、仙台駅の荷物取扱所に自転車を持ち込む若者が引きも切らなかった。

この仙台七夕祭り、会期中に必ずひと雨くるといのがジンクス。東北は深刻な干ばつに悩んでいるだけに、この七夕祭りに雨を願う農民も多いもっとも豪華な飾り付けをした商店側は「3日間は晴れ。祭りが終わってからは雨を…」とムシのよい願掛けをしているとか。」

8月6日の読売新聞夕刊は仙台の七夕祭りの模様をこう報じ、ひと風呂あびてスイッチを入れたテレビは、300万円もする豪華な飾り付けもあるという一番町通りのにぎわい振りを見せて呉れたが、この日の仙台は34.2°Cと、ことし一番の暑さだったとか。

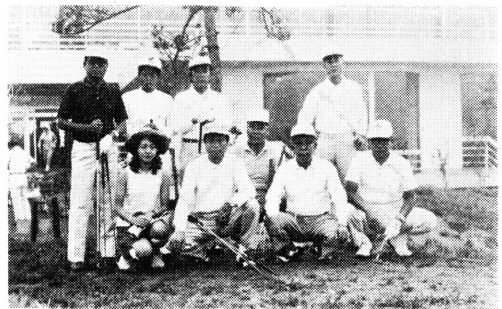
去る7月28日、仙台管区気象台は「水不足の現状と今後の見通し」の説明会を開き、県、仙台市、東北電力、各農業団体関係者に深刻な現状を次のように報告した。

「4～5月の東北の降水量は、山形で平年並みのほかは、例年の50～80%。梅雨期間の6～7月は東北南部で例年の30～50%、北部は10～20%で青森、秋田、岩手の3県が特にひどい。

例年は太平洋高気圧が発達して、日本南部に停滞していた梅雨前線を北上させ、東北に大雨を降らす、ことしは太平洋高気圧の勢力が弱く、乾燥したチベット高気圧の分身と思われる日本海高気圧が日本を覆ったため、梅雨前線を反対の南に

押し戻し、空梅雨にした。”

“日本海に張り出した高気圧は、7月28日ごろから東方へ移動し始めたので、東北地方が気圧の谷になり、雷雨が降る可能性があるが、全体としては水不足の解消は期待できない。8月下旬に来るかも知れない台風の降雨待ち。”



東北出張所の面々

しかし、会期中に必ずひと雨くるといジンクスが間違いないとすれば、新潟県北部の村上市を中心に局地的な豪雨をもたらし、羽越線を中断させた南下中の気圧の谷が、宮城県にも慈雨をもたらした筈で、広瀬川水系の水を使用している200haの水田のヒビ割れも、水不足に悩んでいるという2,700haの水田もホッと一息つける訳だ。

先日所用があってチッソ旭肥料(株)東北出張所へ電話をしたとき応待に出た浜田みどりさんも云っていた。“なんや60年振りの早ばつとか云う人もおるし、とに角落付けん気持です。でもこの頃はなんとなく降りやすいような気配にはなっております。しかし、七夕さんは雨降らせたくはなし、どう云ったらいいのかしらん…”

こんな一番町通りの中に、わがチッソ旭肥料(株)東北出張所がある。米の生産調整は現在実施中ではあっても、ここ東北というところは、やっぱり米どころ、最近になって野菜振興の声も聞えるが、まだまだ米のウェイトが高い。

このような東北農業に幾らかでもお役に立ちた

いと、磷硝安加里1号、S604、CDU磷加安S555を主銘柄に、各肥料メーカーの中心的な地位を確保しているのが、わが東北出張所であり、これと思ったらテコでも動かん気概の堀本所長以下8名の面々が拡販に東奔西走されている。

そこで、8月号には東北出張所の堀本所長以下の面々のプロフィールを取材しようと考えていると、或る日1通の封筒が届いた。開けてみたら、別項のような原稿が入っていたが、筆者は誰であるか判らない。へたな穿索(せんさく)けるよりも、そのままの方が面白いと思い、2、3修正のうえで紹介した。(K)

怒られると怒ると怒らぬ所長

堀本金治さんのプロフィール

肥料は、旭化成工業(株)がコヤシを始めた時からの経験者。所員の尻を叩くだけ叩きながら？も、いかに気嫌よく仕事をしてもらうか、セールス・カーの事故がないようにと、細かい神経を使っている。

今度はテッキリ怒られると思って帰ったときは怒られず、まさかこれくらい的事じゃ怒るまいと、タカをくくって帰って来たときは、案に相違の大むくれで所員をあわてさせる。

仕事でも、ギャブルでも負けずらい。この性格が仕事面に出てくるという鬼所長？であるそうなの…。

所内きってのキレモノ若林昭さん

肥料の経験7年。現在福島県担当。大沢(富士山)クズレの防止策で懸命。所内きってのキレモノで、現在安全運転管理者。それにしては、コヤシが効いてないような身体？で一生懸命肥料を売っている。

体躯の割に、かわいい字を書く流川さん

肥料の経験は6年。現在青森県担当。津軽美人にモテモテで、鼻の下が長くなる一方…。涼風の立ち始めた頭を、いかに調整するか毎朝心をくだしている。

体躯の割には、小さな、かわいい字を書く。(編註一流川さんは6尺豊かな体躯の持主である)

フランク永井ばりの池田隆行さん

肥料の経験7年。日下、宮城県担当。歌曲をうたわせては所内随一、フランク永井で迫ります。ただし、酒を飲ませたら、指示薬一杯でたちまち

真っ赤に変色する。そこで土壌分析でも、pH測定では酸性土壌を決して見逃さないという。

セミ・チョン解消の森下三熊さん

肥料の経験6年の持主で、現在山形・庄内の担当。ことし、永年のセミ・チョンに別れをつけたせい、近頃勇気100倍でやる気十分。(本人の話だから間違いあるまい)

山形・庄内では“熊さん”で通り、庄内おぼこにも人気が高いことから、一時は、庄内永住も考えたとか…？歌は見かけによらずショパンなど、もっぱら本格的クラシック型である由。

編註：セミ・チョン=セミはsemi, チョンは朝鮮語のチョンガー。意味は説明の要がないでしょう。

車の運転では所内随一の笠松義男さん

肥料の経験は3年、目下、新潟県のセールスを担当しているが、奥様まで新潟美人とは、並々ならぬ念の入れようだとの評判。車の運転にかけたら、所内で右に出るものなし。長いもの、短いもの、大きいもの、すべてよく乗りこなす。ただ一人の宮城県出身者ダッチャ…。

20代にサヨナラした井上勝美さん

20代にサヨナラしたせいでもあるまいが、かっぶくがよくなったが、最近ではチョット太めの感なきにしもあらず。出張中も美人？の奥さんと愛嬢あずさちゃんの写真を離さないという愛妻家であり、良きパパでもある。(ということは、鼻の下も長いということ)

広い岩手県内を駆けめぐり、毎月、計画オーバーの実績をあげてるハリキリマン。

所員のアイドル浜田みどりさん

肥料の経験は4年。東北出張所のアイドルである。週1回出社する所員の楽しみは、所長の渋い顔？を見たショックを癒してくれる彼女の笑顔にある。

あとかき 酷暑の折柄にも拘らず、ますますご活躍のことと存じます。ことしの異常干ばつには全く困ったものだと思います。日照りに不作為なしと申しますが、現地におられる方には、そんなところではありますまい。お見舞い申し上げます。8月号をお届け致します、言訳めいたこととなりますが、かねて予定の三橋全農連会長、埼玉県経済連会長さんの原稿は10月号以降に延期致します。9月号は“食糧はどうなる”(特集)です。(K生)